

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

01.08.03

REC'D 19 SEP 2003

WIPO PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年 8月 2日  
Date of Application:

出願番号 特願2002-226431  
Application Number:  
[ST. 10/C]: [JP 2002-226431]

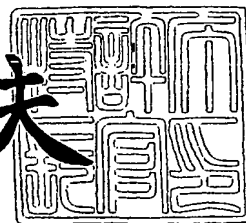
出願人 株式会社エフピコ  
Applicant(s):

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 9月 4日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 106206

【提出日】 平成14年 8月 2日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B65D 5/20

【発明者】

【住所又は居所】 広島県福山市曙町1丁目12番15号 株式会社エフピコ内

【氏名】 藤井 宣典

【特許出願人】

【識別番号】 000239138

【住所又は居所】 広島県福山市曙町1丁目12番15号

【氏名又は名称】 株式会社エフピコ

【代理人】

【識別番号】 100075155

【弁理士】

【氏名又は名称】 亀井 弘勝

【選任した代理人】

【識別番号】 100087701

【弁理士】

【氏名又は名称】 稲岡 耕作

【選任した代理人】

【識別番号】 100101328

【弁理士】

【氏名又は名称】 川崎 実夫

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 010799

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0012248

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書  
【発明の名称】 包装用容器  
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

周側枠の上部口縁の突出部が端縁となっている包装用容器において、上記突出部を前後および／又は上下にジグザグに形成して端面に対して前後方向、上下方向に凹凸形状となるように構成していることを特徴とする包装用容器。

【請求項 2】

上記凹凸形状は、凹凸量を 0.2 ～ 1 mm、好ましくは 0.5 mm 以下で、凸部間ピッチを 0.5 ～ 5 mm、好ましくは 1 mm に形成している請求項 1 記載の包装用容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、周側枠の上部口縁が端縁となった包装用容器に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

従来の包装用容器のうち、例えば、シート成形により形成され、内部に収容部が形成されている容器は、近年省スペース化等の要請が強くなっており、発泡シート成形品から薄手のシート成形品へと需要が変化してきている。薄手のシート成形品は、シート成形された後、刃物で裁断されて製品として形成されるもので、一般的な容器形態として、収容部を形成する周側枠がやや外側に傾斜した壁部として形成され、壁部の上部に水平部分が形成されていると共に、水平部の外側が端縁となっているものである。

【0003】

そして、上記シート成形品からなる容器の端縁は、端面が長手方向に直線状となっており、外周全体に亘って鋭利な縁（耳）として表れているものである。

しかしながら、この包装用容器では、端面が直線状であるため、薄くかつ直線状で鋭い縁（耳）となっているおり、人の手や指等がこの端縁の長手方向に沿っ

て擦れたりした場合には、鋭い縁によって人の手や指等にケガを負う問題点があった。

#### 【0 0 0 4】

また、この包装用容器に物品を収容して展示するために包装フィルムを用いてラッピングする際、上記端面によって包装フィルムが切れ、包装をやり直しするケースも発生しており、包装に手間がかかるという欠点もあった。

そこで、この発明は、例えばシート成形等にて薄手の端縁が形成された包装用容器であっても、上記端縁によってケガをしたり、包装フィルムが切断したりすることの無い包装用容器を提供することを目的としている。

#### 【0 0 0 5】

##### 【課題を解決するための手段及び発明の効果】

上記目的を達成するため、この発明の包装用容器は、周側枠の上部口縁の突出部が端縁となっている包装用容器において、上記突出部を前後および／又は上下にジグザグに形成して端面に対して前後方向、上下方向に凹凸形状となるように構成していることを特徴としている。

上記構成の包装用容器では、周側枠の上部口縁の突出部の端縁が前後方向および／又は上下方向に対して凹凸形状となっているので、シート成形等にて形成された端縁が薄い状態となっても、手や指等が端縁の長手方向に沿って移動した場合でも手や指等がケガをする虞を解消できる。

#### 【0 0 0 6】

上部端縁が前後若しくは上下にジグザグ状となっていることによって、手や指等の一個所に連続して当接する状態となることがないため、端縁がナイフのように手や指等に切り込む事態となることはなく、手や指等にケガをすることがなく、包装フィルム等に対しても当接面積が少なくなり、フィルムが切断される虞も解消できる。

さらに、従来、シート成形の際に行われていた切断方法では、刃物が直線状であったために、切断面にケバやバリが生じていたが、切断面が凹凸形状となることによって、ケバやバリを防止することができるようになった。

#### 【0 0 0 7】

**【発明の実施の形態】**

次いで、この発明の実施の形態を説明する。

図 1 は、実施の形態を示す包装用容器の斜視図、図 2 は、図 1 の A 部分の部分拡大図、図 3 は、他の実施形態を示す端縁の部分拡大図である。

包装用容器 1 は、この実施の形態では、例えば周側枠 1 0 が方形で、底板 2 0 を設けた一般的な形状のものを示している。

**【0 0 0 8】**

周側枠 1 0 は、容器内外方向への強度を保持するため上部にフランジ状端部 1 1 を有するものである。フランジ状端部 1 1 は、水平部 1 1 a と、水平部 1 1 a の先端が突出部 1 1 b として形成している。上記突出部 1 1 b は蓋側に形成された周縁垂下部（図示せず）と嵌合する形状として外側へ突出した形態に構成されている。

そして、この突出部 1 1 c の端縁は、幅方向に対してジグザグとなった凹凸形状に構成しており、凹凸形状は、凹部の深さ、若しくは凸部の突出長、すなわち前後の凹凸量を 0.5 mm 以下で、凸部間ピッチを 1 mm 程度に形成して、比較的細かな凹凸形状として構成しているものである。

**【0 0 0 9】**

上記凹凸量としては、0.2～1 mm の範囲に設定することができ、好ましくは 0.5 mm 以下で、かつ凸部間ピッチを 0.5～5 mm の範囲に設定することができ、好ましくは 1 mm に形成している。上記の設定値以下の場合には凸部間が非常に接近して直線状に近くなり、また、上記設定値以上の場合には、直線状に近い状態となり、いずれにおいても効果が減退する。

この包装用容器 1 は、容器内側に食品等を収容する容器として使用されるもので、一般的にシート成形により形成され、裁断されて製造されるものであるが、裁断時に周側枠 1 0 の突出部 1 1 b の先端を凹凸形状にカットしている。上記凹凸形状は、突出部 1 1 b の幅方向に凹凸形状としており、当該容器の取扱い時に突出部 1 1 b に手や指等が擦れたとしても、端縁が凹凸形状となっていることによって、端縁が非鋭利な形態とすることができ、手や指等に傷を付ける虞はなく、包装フィルム等が切断することも無くなる。したがって、シート成形により製

造された包装用容器 1 であっても、安全な容器として提供することができる。

#### 【0 0 1 0】

上記突出部の凹凸形状としては、図 3 に示すように、厚み方向、すなわち上下に凹凸形状とすることもできる。この形態であっても、端縁が手や指等に対して直線状に擦れる状態を回避することができ、手や指等に傷を付ける虞は無くなり、包装フィルム等が切断することも無くなる。

また、凹凸形状としては、幅方向（前後）と厚み方向（上下）の双方向に対して凹凸を付与することもでき、端縁が一直線状にならない形状であれば、種々の形態を採用することができる。

#### 【0 0 1 1】

なお、上記した実施の形態では、容器の本体の周縁に実施した例を示したが、蓋の周縁に対して同様に実施することもできるものであり、蓋の端縁によって、ケガをしたり、包装フィルムが切れたりする虞を解消できるものである。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図 1】

この発明の実施の形態を示す包装用容器の斜視図である。

##### 【図 2】

上記包装用容器の A 部の拡大図である。

##### 【図 3】

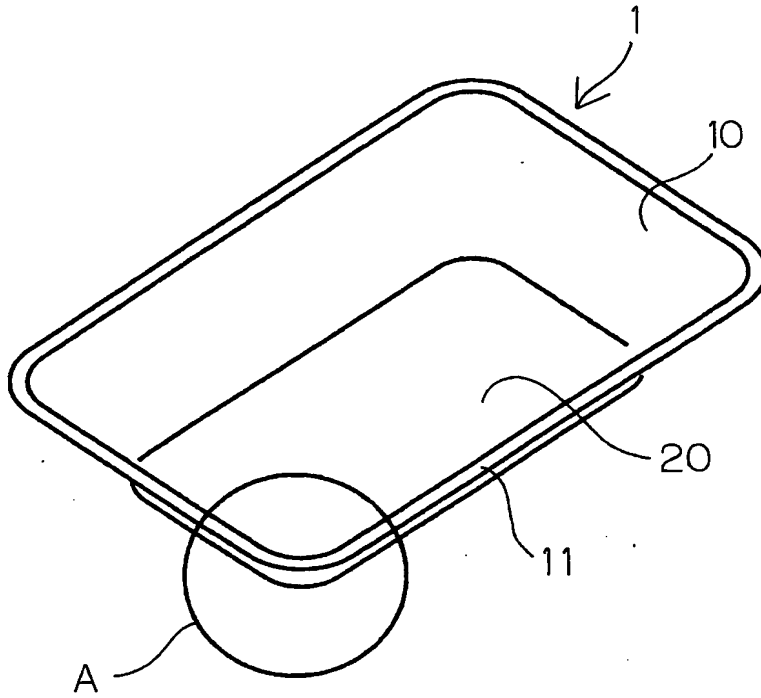
他の実施の形態の要部拡大図である。

#### 【符号の説明】

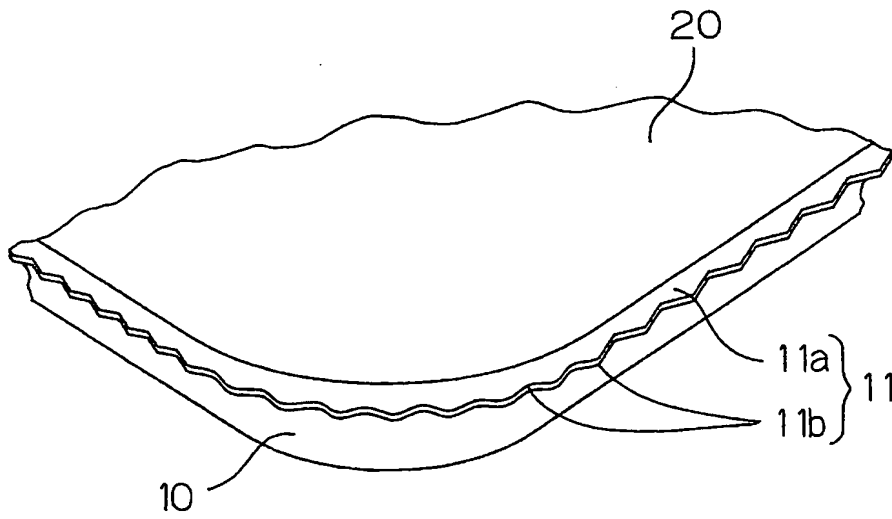
- 1        包装用容器
- 1 0     周側枠
- 1 1 b   突出部

【書類名】 図面

【図 1】

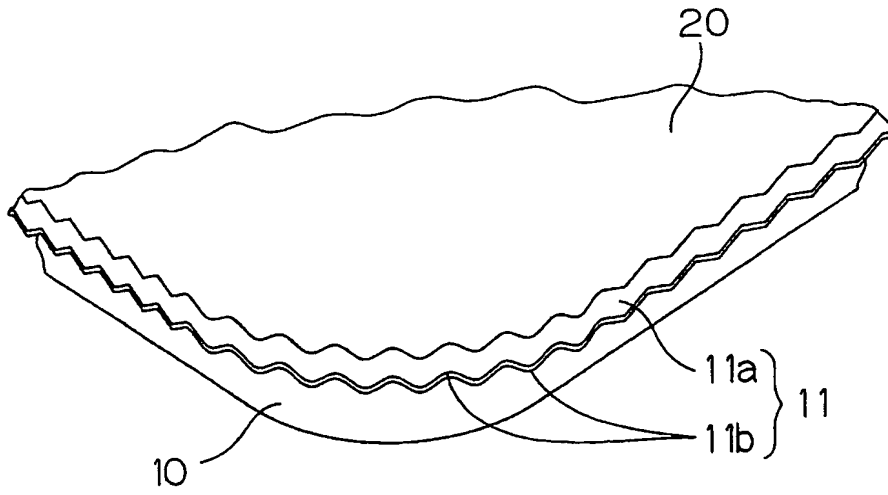


【図 2】





【図 3】



【書類名】

要約書

【要約】

【課題】例えばシート成形等にて薄手の端縁が形成された包装用容器であっても、端縁によってケガをしたり、包装フィルムが切断したりすることの無い包装用容器を提供すること。

【解決手段】周側枠の上部口縁の突出部が端縁となっている包装用容器において、上記突出部を前後および／又は上下にジグザグに形成して端面に対して前後方向、上下方向に凹凸形状となるように構成していること。

【選択図】

図 2

特願 2 0 0 2 - 2 2 6 4 3 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 2 3 9 1 3 8 ]

1. 変更年月日

1 9 9 7 年 5 月 9 日

[変更理由]

住所変更

住 所

広島県福山市曙町 1 丁目 1 2 番 1 5 号

氏 名

株式会社エフピコ